

【解答例】

一 問一 古い作品であればよいというわけではなく、文学経験や概念が異なる過去の作品でありながらも、現代人に訴えかける魅力をたたえた作品こそが古典と言いうるのだということ。(80字)

問二 日本の古代文学史を、文学史と民族史の連続性という日本独自の視点で描き、自文化への影響を考察することは、古代文明との連続性をもてない諸民族にはできないことだから。(80字)

問三 時代の中で存在し、独自の機能をもつ文学ジャンルを混淆することは、将棋と碁という全く違うゲームを見た目の類似性だけで混同するのと同じく、馬鹿げたことだということ。(80字)

問四 異なる時代でも魅力を再発見できる古典を、複雑に入り組んだ歴史的活動としてとらえるのが文学史である。したがって、古代文学史においては、作品を時系列で羅列するだけでなく、社会背景と関連する文学ジャンルでとらえ、諸ジャンルが異なる時期に発生する過程や、拮抗関係などを一貫して見てとることが、困難ではあるが重要であるということ。(160字)

- 問五 (a) 次第 (b) 時勢 (c) 憧憬  
(d) 便乗 (e) 消息

- 二 問一 ハ  
問二 (a) 〳られ (b) 〳らる  
(c) 〳らるれ (d) 〳らるる

問三 ① 〳鳥羽天皇がいらっしやって、

② 〳故堀河天皇が庭の様子をご覧になったならば、どれほど賞賛なさっただろうか

③ 〳作者が私室に下がっていた時に(ところ)、

④ 〳作者は泣いていることを鳥羽天皇に悟られ申しあげまいと思つて、平然と振る舞いながら、

問四 故堀河天皇との思い出にふけていると、不意に鳥羽天皇に声を掛けられ、一瞬で現実に戻された状態。(49字)

問五 故堀河天皇への追慕の涙をごまかした作者に対し、その理由にも気づいていることを、それとなく伝えた幼い鳥羽天皇の言葉が、利発で洒落っていたから。(69字)

三

問一 ① 〳かくのごとくなるを

《別解》

かくのごときを

② 〳かつて

③ 〳あにうべけんや

問二 ア 〳臣下も同様に自分の家を無事に保つことができない。

イ 〳最後まで煬帝自身の過ちを耳に入れないようにさせ、

ウ 〳相手に耳障りなことがあっても、言葉を尽くして正し

諫める必要がある。

問三 隋の煬帝が臣下からの諫言を耳に入れないようにさせて、

結局は滅亡に至ったこと。

問四 善政を行うには忠臣の諫言が不可欠であるから、奏上する

人物の緊張を解いて、思う存分に発言させる意図。(49字)